

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	近江八幡駅前校第2		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団療育の実施	個別支援を中心にしながら月2回小集団療育を実施しています。集団で見えた困り感や課題を丁寧に把握し、個別支援で具体的にサポートすることで、社会性の育ちにつなげています。	活動のねらいを明確にし、事前事後の振り返りを行いながら支援の質の向上に努めていきます。個別支援との連携を強化し、より効果的な循環型支援を目指しています。
2	一人ひとりに合わせたオーダーメイド療育	子ども一人ひとりの「できた」「伸びた」を大切にしたい個別目標を設定しています。また、保護者との振り返りや面談を通して、家庭での様子や要望を支援に反映し、継続性のある療育を行っています。	保護者との面談や日々の連絡を通してご家庭での様子も丁寧に把握し、家庭と事業所が連携した一貫性のある支援を行えるよう努めます。加えて、職員研修や外部研修への参加を通して専門性の向上を図り、多様なニーズに柔軟に対応できる体制づくりを進めていきます。
3	日頃から保護者の方と情報共有を行い、こどもの健康や発達 の状況について共通理解ができていくこと	毎回の支援後に、指導員と保護者との間で15分程度の振り返りの時間を設け、支援内容の共有を行っています。また、必要に応じて保護者との個別面談も実施しています。	今後も、些細な変化にも気づけるよう観察力を高めるとともに、職員間での情報共有を徹底し、統一した支援につなげていきます。また、ご家庭での様子やご心配ごとを気軽にご相談いただける関係づくりを継続し、双方向のコミュニケーションをさらに充実させていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催の機会が設けられていないこと。	保護者会のニーズがある方とそうでない方がいるため、なかなか保護者会を開催できていない現状があります。	保護者への情報提供の場として、無理なくできることから保護者会の開催ができればと考えています。
2	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がないこと。	1時間の個別療育のため、時間内に教室外へ出て地域の子どもと交流する機会を持つことが難しい現状があります。	個別療育でこどもの社会性やコミュニケーション能力が育つように支援することで、地域で他の子どもと楽しく関わることができるようになっています。
3	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会がないこと。	支援後の保護者との15分の振り返りや、任意の事業所内相談などで、家族支援を行っていますが、専門的な家族支援プログラムとして系統立てていません。	職員が専門的な研修などを受ける機会を作ることで、保護者を対象にした研修会などを開けるようにできればと思います。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 近江八幡駅前校第2

公表日 2026年 2月 14日

利用児童数 14

回収数 12

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	1	0	0	曜日・時間帯による	利用者、支援内容に応じた環境設定を行っています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	0	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	0	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	1	0	0	・暑いとき、寒いとき、まぶしいときあり	窓にカーテンの設置をし、日光を遮断します。また、持ち運びの暖冷房の設置をします。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	2	0	0	・理学・作業療法士の配慮も期待したい ・職員によってばらつきがあると思います	必要に応じて、他校舎の理学、作業療法士さんと相談できる体制を整えます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	0	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	1	0	1	・児童発達ガイドラインがどのようなものかわからないため不明	説明の際、保護者の方にご理解いただけるように説明させていただきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	1	0	1		
保 護 者 へ の 説 明 等	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1	1	2		
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	0	1	1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	1	0	0	・職員さんによってばらつきがある	FBで丁寧に保護者の方からのお話を聞いていけるよう努めます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	0	1	7		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	0	0	2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7	0	0	5		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	0	1	4		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	0	1	7		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	0	1	1	・誤飲が心配なおもちゃがある	子どもの見守りを徹底し、未然に事故を防げるようにします。発達年齢に合ったおもちゃの提供をします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9	0	0	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	12	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12	0	0	0	・楽しく通っている	これからも利用児童が楽しく通える事業所づくりを心掛けていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	11	1	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		近江八幡駅前校第2		公表日		2025年 2月 14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーテーションを利用して適切な空間を設け、机上活動や簡単な運動もできるようにしています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		適切な職員配置を心掛け、複数担当制でその都度柔軟に指導員を配置できるようにしています。	指導員の病欠などがあると、適切な職員配置が難しくなるので、人員を増やせればよいと思っています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		1階で段差が無いので、ベビーカーでも通所できます。車椅子でも対応可能です。	限られたスペースで物の置き場所が制限されるため、常に整理整頓を心掛ける必要があります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々のミーティングを大切にしています。定期的に業績評価シートを用いて、目標設定と振り返りをしています。	業績評価シートの通りに実行することが難しい時もあるので、業務改善のための共通認識を持つために日々精進していきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表の結果をもとに会議を開き、保護者の意向を把握しました。	今後も保護者の意向を踏まえて、業務改善に努めていきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者の外部評価はありませんが、法人内の内部監査があり、業務改善に努めています。	第三者による外部評価を検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		各指導員は支援計画の内容を共有して、計画に沿った支援をしています。	今後も継続していきます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		法人が定めたアセスメントシートを用いています。また支援記録にその日の気付きなどを記載して、それを共有しています。	記録やミーティングなどで、子どもの状況を把握できるようにしていきます。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		ミーティングで各指導員が、本児の現状を共有するようにしています。	継続してミーティング、カンファレンスの実施を徹底していきます。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日ではないこともありますが、ミーティングで支援の振り返りや、伝達事項の共有をしています。	様々な日々の気付きや、ヒヤリ・ハットの共有につなげていきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者から依頼された場合、小学校へ提出する書類に支援内容などの共有事項を書いています。	小学校や特別支援学校と、直接つながることができるようにしていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		連絡協議会への参加や、市の支援センターが開催してくださっている研修へ参加しています。	今後も児童発達支援センターとのつながりを大切にしていきます。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	1時間の個別療育のため、教室外へ出て地域のこどもと交流する機会がありません。	地域の他のこどもとの活動は難しいかもしれませんが、方法を探っていきたいと思えます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回支援後に15分の振り返りを行い、保護者との共通理解の場をしています。	家族支援も大切なので、これからも支援後の保護者との振り返りをしていきます。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		保護者の方の要望に応じて、きらりカフェの実施をしています
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域活動として「オレンジジャンプ」を実施しています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、指導員で共有しています。また、月に1回程度の避難訓練を実施しています。	教室掲示を徹底して、利用者・保護者への周知をしています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者からの情報をもとに、服薬があるこども、てんかん発作などのあるこどもについて、事業所内で共有しています。	事前に発作時の対処法を保護者から聞いてるので、発作が起きた場合でも冷静に対処できるようにしていきます。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回以上、虐待防止・身体拘束委員会を開き、事業所内研修をしています。	今後も職員研修の機会を確保していき、虐待の防止に努めます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			